

## 序文 八王子の山と歴史

八王子市の中で標高が最も高い所は醍醐丸の頂上です。醍醐丸を起点に八王子市の北の縁取りである秋川丘陵(中程から加住北丘陵と名称を変える)、南の縁取りは陣馬裏高尾山稜～南高尾山稜～多摩丘陵となり、その南北の丘陵間に更に十余の山稜、丘陵を東進させて多摩川へと裾を降ろしながら武蔵野に至ります。川の流れを見るならば北部は浅川、谷地川、川口川、南部は大栗川の流域に八王子市は広がっています。八王子市の山々から醍醐丸を経て尾根沿いに西へ西へと向かえば、一筋の小川の流れを通すことなく関東山地の最高点北奥千丈岳(山梨県山梨市・2,601m)またはその少し先に同等の標高を持つ金峰山五丈石(山梨県甲府市と長野県南佐久郡上川村の境)に繋がっています。八王子市は富士山とも、三つ峠(山梨県都留市と西桂市と富士河口湖町の境)の南端に流れ込んだ溶岩により繋がっています。

八王子には都内最多の1,035箇所の遺跡があり、多摩ニュータウンの地は約3万年前には人が住んでいました。縄文時代より以前の旧石器時代には長野県霧ヶ峰産の黒曜石を用いていることから、当時にも長野県に至る甲州道のような、或いは山上の尾根伝いに移動するマタギや山人のような人々による交易があったものと考えられます。

高尾山が修験道の要衝であることはよく知られています。役小角を始祖とする修験道は、仏教の伝来よりやや早く発祥がみられ、仏ではなく太陽や自然を崇拜し山岳地帯を駆け巡るなどの修行により、自然界の優れた能力や霊力を身に着けることを目的とされていたようです。奥多摩の大岳山、御岳山から八王子では北側は滝山に拠点が置かれ、高尾山から大山道を通り、相模原愛川町の八菅山に拠点があり、大山(神奈川県伊勢原市と秦野市と厚木市の境)との間にある仏果山、経ヶ岳、華厳山、などを修行の地として栄えたとみられます。

7世紀以降は仏教が伝来し神仏習合の進む中で、暮らした山そのものや高点を、神仏や要所と崇める宗教の中で里山は歩かれ、石碑、寺社仏閣が築かれました。現存している石仏などは貴重なものとして大切に保存したいものですが、明治初期の廃仏毀釈により多くの仏教関係の社殿や石仏などが焼き払われ、撤去破棄されたとみられます。

このような歴史に想いを致し、平和の大切さを考えることも大切かと思えます。八王子市には第二次世界大戦の遺跡、痕跡も多く残っていますが、特に市内の山中には①高尾駅近、初沢山・金毘羅山地下の大規模地下壕。②猪鼻山の中央線湯ノ花トンネル入り口での

戦闘機による死者 52 人の犠牲者を出した全国一の列車銃撃事件。③加住南丘陵犬目山山中の 13 発の 250kg 爆弾により残された都内唯一のクレーター群は、そこに立てば戦争の臨場感をリアルに感じ取れるものであるだけに、大切に保全されたいものです。

この様に約3万年も前から人々の生活の舞台であった八王子市ですが、『山河』は形をほとんど変えずにここにありました。しかし、何万年姿を変えずにいた八王子市の山はわずか数十年で土地開発や造成工事により突然の地形変更を施されてしまいました。一度壊された山は二度と同じ形には戻りません。自然保護の観点からも、八王子市の山や自然を後世まで残していけるよう心がけたいものです。

〔最後に〕 朝な夕な、浅川や大栗川の橋や高いビルの窓から眺める山並みや丘を、歴史や先人たちの暮らしを思い浮かべて地図を持ち歩きまわる楽しみ、また往来のあった他の地域との峠路や、およそ盆地の地形である八王子市への出入りに利用された峠路を地図で眺め考察して辿ることなど、普段何気なく眺めたり通ったりしている山や道に思い巡らせる、きっかけの一助になれば当プロジェクトの喜びです。

なお、八王子名山の登山に際しましては、整備された登山道のある山は限られています。地図を見ての十分な下調べをされ、必要な体力や装備食料などを準備し、私有地や通行止めの標識などの指示を遵守したうえで実施されますことをお願い致します。

ご注意:当プロジェクトは登山案内ではございません。万一の場合の事故やトラブルについては一切の責任を負いかねますことをご了解願います。

※名山の「番号」は「序文」の冒頭に在ります山地の構造に沿ったものとなっています。

秩父山地核心部から東進して八王子の最初の山である醍醐丸を1番とし、そこから市境に尾根を北上し、北端の東進する尾根沿いを西から東へ数え、次に北から二番目、三番目の尾根沿いと尾根を南下、それぞれの尾根を東進する順番を付けてあります。

※隠れ名山の順番は五十音順に付けてあります。